

仕事と両立！
社会人のための税理士試験突破法

T A C 税理士講座

目 次

ページ

テーマ1 税理士試験について…………… 1～3

テーマ2 受験プラン …………… 4～7

テーマ3 社会人のための学習法…………… 8～15

テーマ4 具体的な学習方法…………… 16～18

テーマ 1

税理士試験について

税理士として業務を行うためには、税理士試験に合格しなければなりません。ここでは、税理士試験の詳細について、データとともに紹介致します。

税理士試験の日程

税理士試験は、例年7月下旬から8月中旬の平日3日間に行われます。試験時間は、全科目とも2時間です。また、合格発表は、例年12月下旬に行われます。

受験資格

税理士試験を受験するには下記のいずれかの受験資格を有している必要があります。

1 学識

- (1) 大学、短大又は高等専門学校を卒業した者で法律学又は経済学を主たる履修科目とする学部・学科・学校を卒業した者、または、それ以外の学部・学科・学校を卒業した者で法律学又は経済学に属する科目を1科目以上を履修した者
- (2) 大学3年次以上の学生で、法律学又は経済学に属する科目を含め62単位以上を取得した者、または、従来の4区分制を採用している大学等において、法律学又は経済学に属する科目を含め36単位（外国語及び保健体育科目を除く最低24単位の一般教育科目が必要）以上を取得した者
 - ・ 法律学に属する科目の例
法学、法律概論、憲法、民法、刑法、商法、行政法、労働法、国際法等
 - ・ 経済学に属する科目の例
(マクロ又はミクロ)経済学、経済学原論、経済政策、経済学史、財政学等

2 資格

- (1) 日本商工会議所主催簿記検定試験1級合格者
- (2) (社)全国経理学校協会主催簿記能力検定試験上級合格者

3 職歴

- (1) 弁理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士等（業務従事期間2年以上）
- (2) 法人等における会計事務経験者（業務従事期間2年以上）
- (3) 税理士、公認会計士、弁護士等の業務補助経験者（業務従事期間2年以上）

なお、受験資格を有するかどうか判断しかねる場合には、「国税庁内国税審議会税理士分科会」へお問い合わせ下さい。

科目選択制度

科目選択制度とは、税理士試験の試験科目全11科目から5科目を選択することができる制度です。試験科目の中には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、この制度により科目選択にかなりの幅が認められています。

会計科目		税法科目								
必 須		選択必須		選 択						
簿記論	財務諸表論	法人税法	所得税法	相続税法	消費税法	酒税法	固定資産税	事業税	住民税	国税徴収法

(注1) 消費税法と酒税法は、どちらか1科目しか選択できません。

(注2) 事業税と住民税は、どちらか1科目しか選択できません。

試験科目の内容

科 目	内 容
簿 記 論	企業が行った取引をどのように会計帳簿に記録するかを学習
財務諸表論	株主等に報告するための財務諸表の作成に関する考え方を学習
法 人 税 法	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法の考え方を学習
所 得 税 法	個人の儲けに対して課される税金について定めた所得税法の考え方を学習
相 続 税 法	相続等で財産を無償取得した場合に課される税金について定めた相続税法の考え方を学習
酒 税 法	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法の考え方を学習
消 費 税 法	商品の販売等に対して課される税金について定めた消費税法の考え方を学習
固定資産税	個人等が有する固定資産に対して課す税金である固定資産税について学習
事 業 税	事業活動を行う個人及び法人に対して課す税金である事業税について学習
住 民 税	所得のある個人及び法人に対して課す税金である住民税について学習
国税徴収法	国税の徴収に関して定めた国税徴収法の考え方を学習する科目

科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。また、科目合格の段階でも評価され、就職や転職に当たり有利に働きます。

つまり、ライフスタイルや将来プランに合わせて受験でき、一歩ずつステップアップしながら、着実にゴールを目指すことができます。

税理士試験の特徴

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）となっていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率は、ほぼ10～15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10～15%の人が合格する競争試験です。

また、どの科目の出題もボリュームが多く、制限時間内にすべてを解答できる問題は出題されません。難易度については、年によりかなりバラツキがあります。ある年の合格ラインはTACでの予想配点で70点位、次の年では40点位というように、簡単な年と難しい年では約30点もの開きがあります。では、なぜ毎年一定の合格率を保っているのでしょうか？

実は、正解率の高い解答箇所の高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は配点を軽くする等の採点上の調整が行われているのです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで合否は決まります。

税理士試験の特徴

- ・制限時間内では解ききれないボリュームの問題が出題される
- ・難易度に関係なく毎年一定の合格率(10～15%)を保っている
- ・合否をわけるのは基本的事項の正解率

参 考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
簿記論	14.8%	18.8%	12.2%	13.2%	18.8%
財務諸表論	16.6%	20.7%	22.4%	18.4%	15.6%
法人税法	12.5%	12.6%	12.4%	12.4%	11.1%
所得税法	13.4%	12.3%	14.8%	13.2%	13.2%
相続税法	11.6%	12.8%	11.7%	12.9%	13.4%
酒税法	12.3%	12.4%	11.8%	13.0%	11.9%
消費税法	13.7%	12.4%	11.8%	10.3%	13.1%
固定資産税	12.2%	17.0%	13.7%	14.8%	14.8%
事業税	17.1%	9.9%	12.0%	13.5%	13.6%
住民税	16.5%	16.5%	12.2%	8.7%	9.6%
国税徴収法	13.3%	13.6%	12.9%	13.2%	14.2%

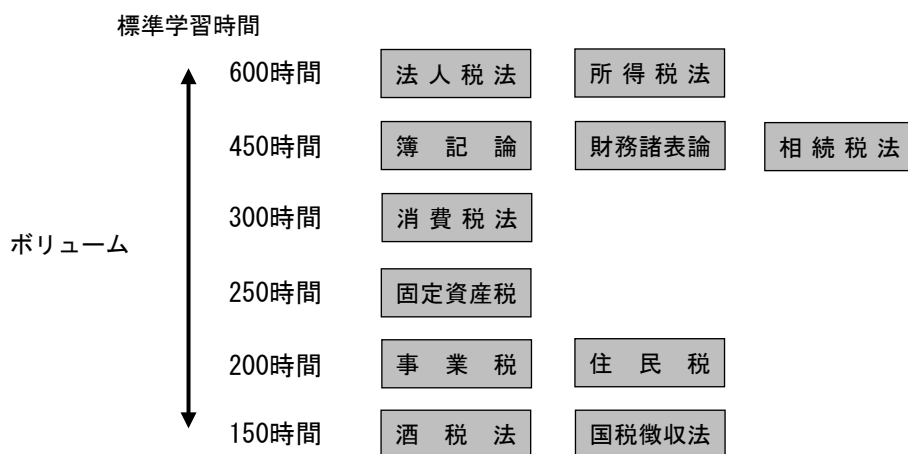
テーマ 2 受験プラン

税理士試験の受験計画を立てるにあたっては、「長期的目標（何年で5科目に合格するか?）」と「短期的目標（次の試験でどの科目を受験するか?）」の2つの目標を明確に持って下さい。

■ 長期的目標（何年で5科目に合格するか?）

「何年で5科目に合格するか?」は、「学習に充てられる時間がどれくらいあるか?」、「どの科目を受験するか?」等によって左右されますが、学生等、受験に専念できる環境にある方は2～3年、仕事との両立を目指す社会人の方は3～5年位を目安にするのが一般的です。

なお、税理士試験の各科目は、下記の通りボリュームがマチマチです。ボリュームの少ない科目を組み合わせることで、仕事をしながらでも1年で複数科目の合格も可能となります。



(注) 標準学習時間には、TACでの講義時間を含みます。なお、学習時間は個人差があります

□ 参考 受験モデルプラン

2年プラン	1年目		2年目	
	簿記論 + 財務諸表論 + 選択科目		法人税法 or 所得税法 + 選択科目	
3年プラン (その1)	1年目		2年目	3年目
	簿記論 + 財務諸表論		法人税法 or 所得税法	選択科目 (2科目)
3年プラン (その2)	1年目		2年目	3年目
	簿記論 + 選択科目		財務諸表論 + 選択科目	法人税法 or 所得税法
4年プラン	1年目	2年目	3年目	4年目
	簿記論	財務諸表論	法人税法 or 所得税法	選択科目 (2科目)

短期的目標（最初の試験でどの科目を受験するか？）

長期的目標が定まったならば、次に「最初の試験でどの科目を受験するか？」を決めましょう。その際には、次の点に留意してください。

1 1週間あたりの学習可能時間を正確に見積もる

どれだけ能力のある方でも、学習に充てる時間が不足していると、良い結果を得ることはできません。次の表で1週間あたりの学習可能な時間を計算してみましょう。

（単位：時間）

	月	火	水	木	金	土	日	合 計
可処分時間								

2 各科目の特徴を把握する

税理士試験の各科目には、「簿記知識が必要な科目とそうでない科目」、「初めての受験に向いている科目とそうでない科目」というようにそれぞれ特徴があります。これらを把握して、適切な受験科目の選択を行って下さい。

(1) 各科目の簿記知識の必要性

簿記の知識が不要な科目	相続税法	酒税法	固定資産税	国税徴収法
簿記3級の知識が必要な科目	消費税法	事業税		
簿記2級の知識が必要な科目	簿記論	財務諸表論	所得税法	
簿記・財表の知識が必要な科目	法人税法			
所得税法の知識が必要な科目	住民税			

(2) 初めての受験に向いている科目

簿記論・財務諸表論といった会計科目は必須科目であり、その知識は法人税法等の学習において役立ちます。また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。しかし、それぞれボリュームがあるため、いずれか1科目選択するのであれば、簿記論をお勧めします。

(3) 2回目以降の受験に向いている科目

法人税法・所得税法といった選択必須科目はボリュームが多いことから、学習スタンスが確立した2回目以降に受験されることをお勧めします。また、事業税・住民税は、法人税法・所得税法と深く関連することから、これらは法人税法・所得税法と学習後もしくは同時に受験するのが好ましいです。

3 科目選択の具体例

(1) 今から(あるいは今年の4月から)2016年の受験を目指す場合

学習時間	週15～20時間程度	消費税法	or	固定資産税
	週10～15時間程度	酒税法	or	国税徴収法

※ 上記4科目は、個別DVD講座及び通信メディアにて今から学習を開始できます。
また、消費税法及び国税徴収法については、4月より教室講座も開講します。

(2) 今年の5～9月から学習開始を開始し、2017年の受験を目指す場合

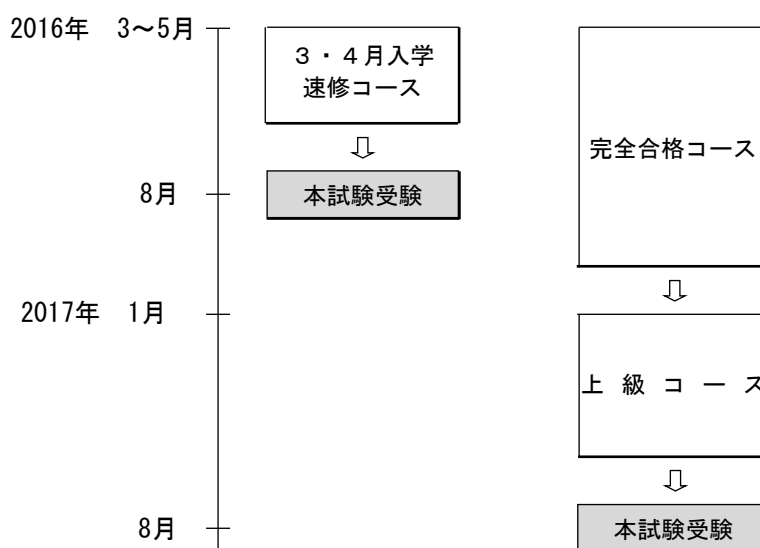
学習時間	週30時間以上	簿記論	+	財務諸表論	+	税法科目(ボリューム少)※
	週20～25時間程度	簿記論	+	財務諸表論		
	週15～20時間程度	簿記論	+	税法科目(ボリューム少)※		
	週10～15時間程度	簿記論				

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のうち、いずれか1科目

3～5月からの開講コース

3～5月から開講するコースには、「3・4月入学速修コース」と「完全合格コース」とがあります。

1 3～5月開講コースの流れ



2 各コースの概要

(1) 3・4月入学速修コース（消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法）

3・4月入学速修コースは、初めて学習される方を対象に本試験までの期間に全試験範囲を効率よくインプットするとともに、問題演習を積み重ねることで、実践的な答案作成能力を身に付ける、短期決戦型カリキュラムです。今年中になんとしても1科目合格されたい方、短期集中型の学習が得意な方等に特にオススメです。

(2) 完全合格コース（簿記論・財務諸表論）

完全合格コースは、初めて学習される方を対象に5月から翌年の本試験合格を目指すコースです。年内は週1回のペースで通学し、8カ月間かけてじっくり合格に必要な知識を習得します。年明けからは上級コースに合流して週2回のペースで通学し、7カ月間本試験レベルの問題演習を繰り返すことにより、合格答案作成能力を養います。

この春から会計科目の学習をされたい方、じっくり時間をかけて学習をされたい方等に特にオススメです。

☐ 参 考 オプション講座のご紹介

1 財務会計入門

税理士試験の会計科目（簿記論・財務諸表論）を学習するにあたり、日商簿記検定2級（商業簿記）程度の知識が必要になりますが、この知識は財務会計入門で得ることができます。

簿記を全くの学習したことがないという方は財務会計入門Ⅰ（全8回）より、日商簿記検定3級レベルの知識をお持ちの方は財務会計入門Ⅱ（全8回）より受講しましょう。なお、「簿記の学習をしたのがかなり昔なので不安だ」という方は、財務会計入門Ⅰから受講することをお勧めします。

簿記初心者の方

簿記3級レベルの方

財務会計入門Ⅰ

⇒

財務会計入門Ⅱ

⇒

税理士会計科目

2 簿記論先取り学習講座

当講座（全4回）では、日商簿記検定2級レベルの方を対象として簿記論で出題される重要論点の先行学習を行います。開講までの時間を有効活用すべく当講座を受講し、スタートダッシュを決めましょう！

学 習 論 点

一般商品売買

特殊商品売買

税金

社債

有価証券

人件費

テーマ 3

社会人のための学習法

「時間がないから勉強できない！」そう思い込んでいませんか？また、「時間に余裕がある時の方が事が進まない！」という経験はありませんか？

税理士試験は長丁場です。特に、社会人が継続的かつ効果的に学習を行うためには、それ相応の努力と工夫が必要です。ここでは、学習を進めるためのちょっとした工夫を提案します。皆さんが学習をすすめていく上で、少しでも参考になれば幸いです。

■ 無理のない学習計画を立て、それを確実に実行する

毎日学習時間を少しでも多く確保し、その時間に必ず机に向かうことが、合格を勝ち取るための最大のカギです。特に、税理士の受験勉強は長丁場なので、受験勉強を生活の一部として習慣付ける必要があります。当たり前の事ではありますが、その当たり前を実行に移すのが本当に難しいのです。

では、確実に実行するためには？

ポイントは、無理のない学習計画を立てることにあります。

社会人の場合、当初予想していなかった仕事等の突発的事象に見舞われる事が大いに考えられます。その結果、計画通り学習が進められず、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、学習時間はある程度ゆとりをもって見積る必要があります。

■ 週間スケジュール表の作成&実行

税理士試験の学習期間は、各科目とも約1年間です。受験勉強を生活の一部として習慣付ける必要があります。そこで、「週間（習慣？）スケジュール表」を作成し、それを確実に実行して下さい。なお、作成にあたっては、次のことを考慮します。

1 優先順位を考える

無理な学習計画を立てないためにも、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジュールリングを心がけましょう。

スケジュール表作成にあたっては、次の順序で記入していくと好ましいです。

(1) コアタイム（睡眠、食事、移動、TAC講義等）を記入する

(2) 空いている時間に復習時間を設定する

復習時間を設定する際は、次の点に留意すると「知識の定着」や「学習の習慣付け」という面で効果的です。

① 毎日コンスタントに復習時間を設ける

② 土日のいずれか一日は予備日として時間を空けておく（突発的事象に備える）

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方が結構います。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約されるため「締切効果」が働き、かえって集中して学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。

「エビングハウスの忘却曲線」によれば、私たち人間の記憶は、1時間後には56%、1日後には74%を忘却してしまうそうです。一方で、早めに復習すると、その内容の印象が強く残り、忘却曲線も緩やかになります。まさに「鉄は熱いうちに打て！」です。

短時間で結構です。講義終了後、移動時間等を使ってその日学習した内容をテキスト等で確認するようにしましょう。

(2) 計算の問題演習を毎日行う

毎回の学習内容は、テキストをしっかりと読み、講義を聞けば必ず理解できますが、それだけでは試験に合格できません。なぜならば税理士試験は筆記試験であり、頭にある知識を答案用紙に反映しなければならないからです。

したがって、「理解した」レベルから「問題が解ける」レベルにその知識を引き上げる作業が必要になります。それが問題演習です。

特に計算の知識の定着には、コンスタントに問題演習するのが大変効果的です。1時間だけの日があってもかまいません。毎日やりましょう。

また、たくさん問題に1回ずつ当たるよりも、問題数をある程度絞ってそれを反復して解く方が、はるかに知識は定着しますし、応用も効くようになります。

(3) 理論は細切れの時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。

また、『昼休み時間』もある程度まとまった学習時間として利用できます。これも時間が制約されている分、かえって集中して学習できます。

■ 時間ではなく量で目標を立てる

学習するのにあたり、必ず小さな目標を常に立てると良いでしょう。小さな目標もコツコツ達成していけば、積もり積もれば山となり、最後には大きな目標を達成できます。まさに「継続は力なり！」です。

また、会社では、「売上数量100台」とか「売上金額100万円」といった具合に具体的な数量や金額で目標を設定します。「売上時間100時間」という目標掲げる会社はありません。

勉強も同じで、「今日は3時間」と学習時間を目標に置くのではなく、「計算問題を10題解こう！」とか「理論1題を必ずマスターしよう！」といった具合に、具体的な学習量を目標に設定しましょう。その方が、はるかに集中力や知識定着の面で効果があります。

■ 目標を達成したら自分にご褒美を

「今週のノルマを達成したら、週末ドライブに行こう！」といったように、大好きな趣味や遊びを目の前にぶら下げておけば、嫌なことでも最後までやり通すことができます。「アメとムチ」ではありませんが、1週間のノルマを達成したら自分にご褒美をあげましょう。これが次の週の仕事や学習の活力となるはずですよ。

■ 税理士資格取得後の自分を大いに思い描く

例えば、「10年後、独立開業して一国一城の主となり、自分だけしかできないコンサルティングの仕事をして多くの顧問先から信頼される。」といったように、資格を取得した後、税理士としてどのような仕事をし、どのような形で社会貢献するかといった将来のビジョンを具体的に持ち、それを願い続けることで、夢は必ず実現します。モチベーションを高く持ち続けることこそ、学習を継続する上での最大のポイントといえるでしょう。

☐ 参 考 1 週間のスケジュール（モデルプラン）

1 3・4月入学速修コース・消費税法学習（4月～本試験）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(消費)	睡眠 復習(消費)	睡眠 復習(消費)	睡眠 復習(消費)	睡眠 復習(消費)	睡眠	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	復習(予備)
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	復習(消費)	自由
12:00						講義(消費)	
14:00						休憩	
16:00						講義(消費)	
18:00						復習(消費)	
20:00	自由 復習(消費)	自由 復習(消費)	自由 復習(消費)	自由 復習(消費)	自由 復習(消費)	自由	
22:00	自由	自由	自由	自由	自由		
0:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2:00							
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

2 完全合格コース、簿記論&財務諸表論学習（5月～12月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)		
8:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	復習(予備)
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
10:00						復習(簿記)	
12:00						講義(簿記)	
14:00	会社	会社	会社	会社	会社	休憩	
16:00						講義(財表)	
18:00						復習(財表)	自由
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
20:00	自由	自由	自由	自由	自由		
22:00	復習(財表)	復習(財表)	復習(財表)	復習(財表)	復習(財表)	自由	
	自由	自由	自由	自由	自由		
0:00							
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

3 完全合格コース、簿記論&財務諸表論学習（1月～本試験）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)		
8:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	復習(予備)
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
10:00						復習(財表)	
12:00						講義(財表)	
14:00	会社	会社	会社	会社	会社	休憩	
16:00						講義(財表)	
18:00						復習(財表)	自由
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
20:00	講義(簿記)	自由	自由	講義(簿記)	自由		
		復習(財表)	復習(財表)		復習(簿記)		
22:00	移動(暗記)	自由	自由	移動(暗記)	自由	自由	
	自由			自由			
0:00							
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

4 あなたの学習プランは？

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							

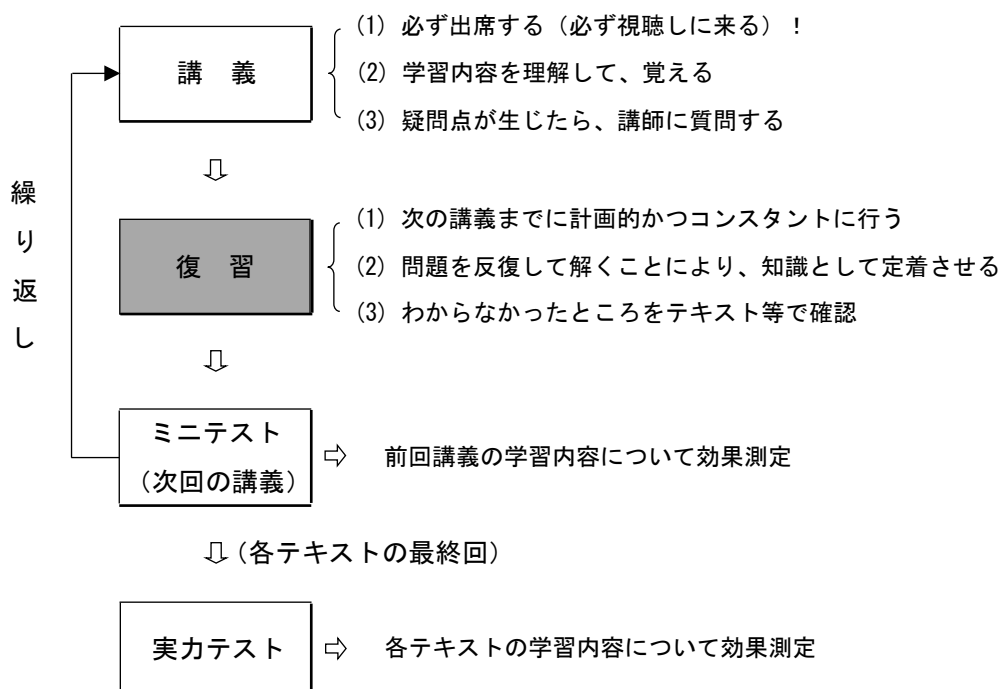
テーマ 4

具体的な学習方法

ここでは、TAC方式カリキュラムに基づく具体的な学習方法について紹介致します。

なお、通信講座の受講をお考えの方もいらっしゃると思いますので、その場合の学習方法についても言及します。

教室講座（個別DVD講座）の場合



1 講義

みなさんが学習を進める上で最も重要なのは、学習内容を正確に理解して覚えるということです。講師陣自らが作成しているテキストとトレーニング（問題集）を用いて、わかりやすく講義を行いますので、必ず講義には出席をしましょう。

また、疑問点が生じたら、すぐ講師へ質問をするように心がけましょう。なお、講師への質問は、講義の開始前、休憩時間及び終了後に直接してもらうことができます。また、講義以外でも、電話やメールによる質問にも対応しています。

講師は、皆さんが学習を進めていく上での「ツール」です。どんどん活用してください。

2 復習

講義以外の学習については、基本的に復習のみでかまいません。その回の講義で学習した内容の復習は、トレーニング等を使用して、必ず次の講義までに終わらせるように心がけて下さい。また、間違えてしまった箇所は、テキスト等を利用してしっかり確認しましょう。

3 ミニテスト・実力テスト

毎回講義の最初にミニテストを実施します。また、定期的に実力テストも実施し、それまでの学習内容が理解できているかどうかを確認します。

これらのテストをペースメーカーとして利用すれば、規則正しく復習を行うことができます。

また、テストの目的は「自分の弱点を発見すること」にあります。自己の現状を把握するためにも、必ずテストは受けて、提出しましょう。

参 考 欠席時のフォローシステム

T A C 税理士講座では、教室の講義を欠席した場合のフォローシステムを充実させております（パンフレット参照）。

具体的には次のものがあります。

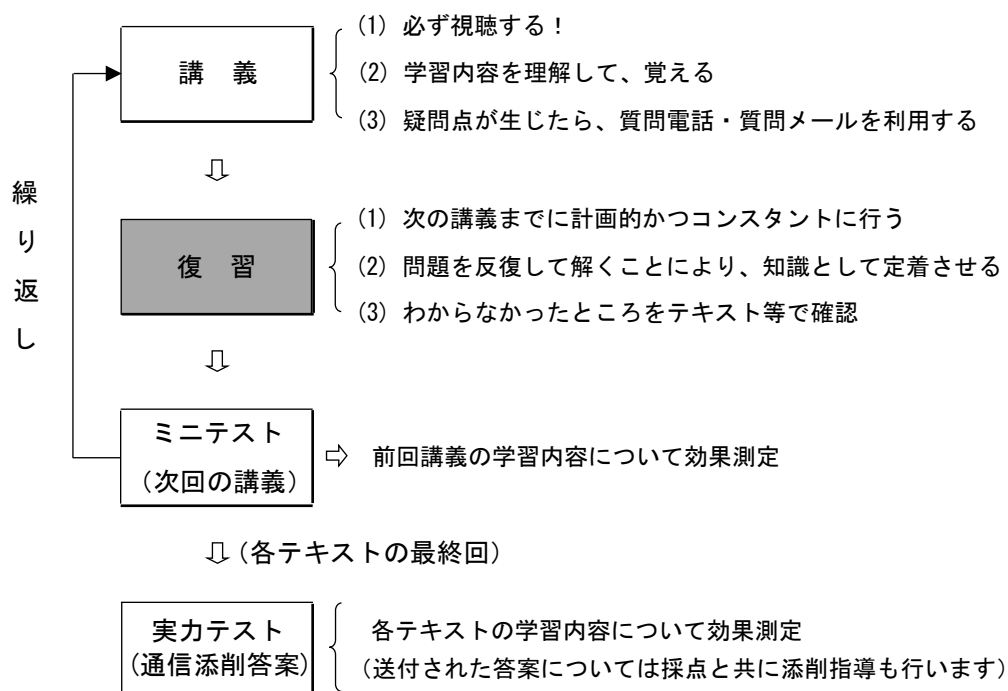
- 1 クラス振替出席フォロー
- 2 W e b フォロー
- 3 音声D L（ダウンロード）フォロー
- 4 個別D V D振替フォロー（有料）

■ 通信メディアの場合

時間的制約等の理由により通学できない方向けに、自宅に居ながらにして通学しているのと同じ効果が得られるように、TACでは通信メディアにも力を注いでおります。具体的な通信メディアは次の通りです。

- (1) Web通信講座
- (2) DVD通信講座

通信メディアの場合の学習方法も基本的には教室講座の場合と同じです。



□ 注 目 スクーリング制度

通信メディアには「スクーリング制度（教室で無料受講できる制度）」というシステムも設けています。教室の臨場感を味わいたい場合や、他の受講生のレベルを知る上で大変有用です。

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。

税理士という仕事は本当に魅力ある職業ですので、是非ともチャレンジして下さい。TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。